

われわれはエスペラントで何ができるか

星田 淳

世界の動きはめまぐるしく速いように見える。例えばペレストロイカ以後ナゴルノカラバフ、バルト三国などに燃え上がった民族対立の姿には驚かされるが、ちょっと考えてみると、百年前のザメンホフの時代からそう変わっていないのではないかと思えてくる。スターリン体制で抑えられていたものが、また表面化したのではなからうか。

この情勢を見て、1906年の第2回世界大会（ジュネーブ）でのザメンホフ演説を思い出したのは私だけではないと思う。対立する民族の間に人間対人間としての対話の橋を架ける国際共通語の意味と、その事業の困難とを彼はここで語っている。

“Terura estas la stato . . .” と彼が語った multlingva Kaŭkazo こそ今報道されているグルジア、アゼルバイジャン、アルメニア一帯であり、彼は当時のロシア領ポーランドで幼児から民族間の争いに心を痛めつつ、国際語の考えを心の中に育てていた。

島国日本のわれわれには、このあたりがどうも実感しにくいものだったが、かつて当時の中曽根首相の「日本は単一民族国家だから優秀」との発言が国の内外から批判を浴びてからちょうど3年、今そんな日本の社会を揺り動かすような現象が進行している。次第に増える外国人労働者と、今年になって急増した中越同舟の難民（偽装を含む？）の上陸である。すでに収容所内のトラブル等、大

陸での民族対立まで輸入されてしまった感じがする。

このような民族対立をこえて fundamento neŭtrale homa の上に立った国際（いや民際か）関係を作っていこうという考えを彼は Homaranismo と名づけたが、非現実的、夢想的といわれることを予想してすぐは発表しなかった。その彼を発表する気にさせたのは、第1回世界大会（1905年、ブローニュ・シュル・メール）の成功だった。当時のわれわれの先輩たちが、中立の国際語によって民族の壁をこえて兄弟のように話し合えることを初めて世界に示したのだ。国境をこえて国際語が実用できた—ということの意義は大きかった。

もちろん私も「国際語が普及すれば、それだけで世界平和が実現する」という甘い考えは持てない。だが、われわれにとって大事なことは、このコトバの実用をひろげていくことだ、とはいえる。ブローニュ宣言でのエスペランティストの定義は誰でも知っているように「国際語エスペラントがわかり、それを使う人」である。われわれはどうエスペラントを使っているだろうか。エスペラントでわれわれはどんなことがやれるか、いっぺんに大きなことは出来ないとは思いますが、具体的に考え、計画したい。

（北海道エスペラント連盟会長）

Major 夫妻 (Novzelando) 北海道大会に参加!

道内滞在 9月29日~10月4日

Josef Major 氏は第1回北海道エスペラント大会(1932年 8月、山部村=いまの富良野市山部)に参加した人。そのとき彼に会ったのは、江口音吉、木村喜壬治の両名。ワルシャワ(ポーランド)の jubilea 100年大会(1987年)では、児玉広夫、木村の両名が会っており、またブリスベーン(オーストラリア)の太平洋エスペラント大会(1988年)では北島睦が会っている。

57年ぶりに夫妻そろって北海道大会に出席して

もらえるのはたいへん嬉しい。

当時、3~4年日本に滞在し、初心者用に2枚一組のレコードを吹込んでエス語の普及に一役買っていたが、あの名調子を再び聴けるのもまた嬉しい。

これで今年の北海道大会も国際大会になった。みんなが Major夫妻を囲んで、せいぜい parolkapablo を磨いてほしいと願っている。

(木村喜壬治)

札幌エス会、シェンヤン - エス会と覚書を交換

9月5日午後3時から約2時間にわたり、北海道教育大学内で、両市エス会の姉妹提携の可能性について協議した。出席者は趙氏と児玉広夫、木村喜壬治、三沢正博、渡辺康子の各氏、それに中国人通訳も交えて、比較的自由に意見交換した。

実は、趙氏から事前に「調印」文案が送られて来ていたので、これを叩き台にしたことは勿論であるが、この草案では(瀋陽エス会役員の札幌エスに寄せる期待とその熱意は想像以上のものであ

るが)、現状の札幌エス会組織を考えると画竜点睛を欠くくらいがあり、最終的に意見の一致を見たのは次ページ別掲のとおり、大きくトーンを落とした内容である。しかし、Esperanto なるが故に、覚書の内容は、相互に直ちに実行すべきことと“将来かくありたい!”という願望表明を付け足すことを忘れなかった。果たしてこの実現はいつのことであろうか?

(児玉広夫)

SALUTOVORTO ĈE LA BONVENIGA KUNSIDO POR ĈINA SAMIDEANO ZHAO

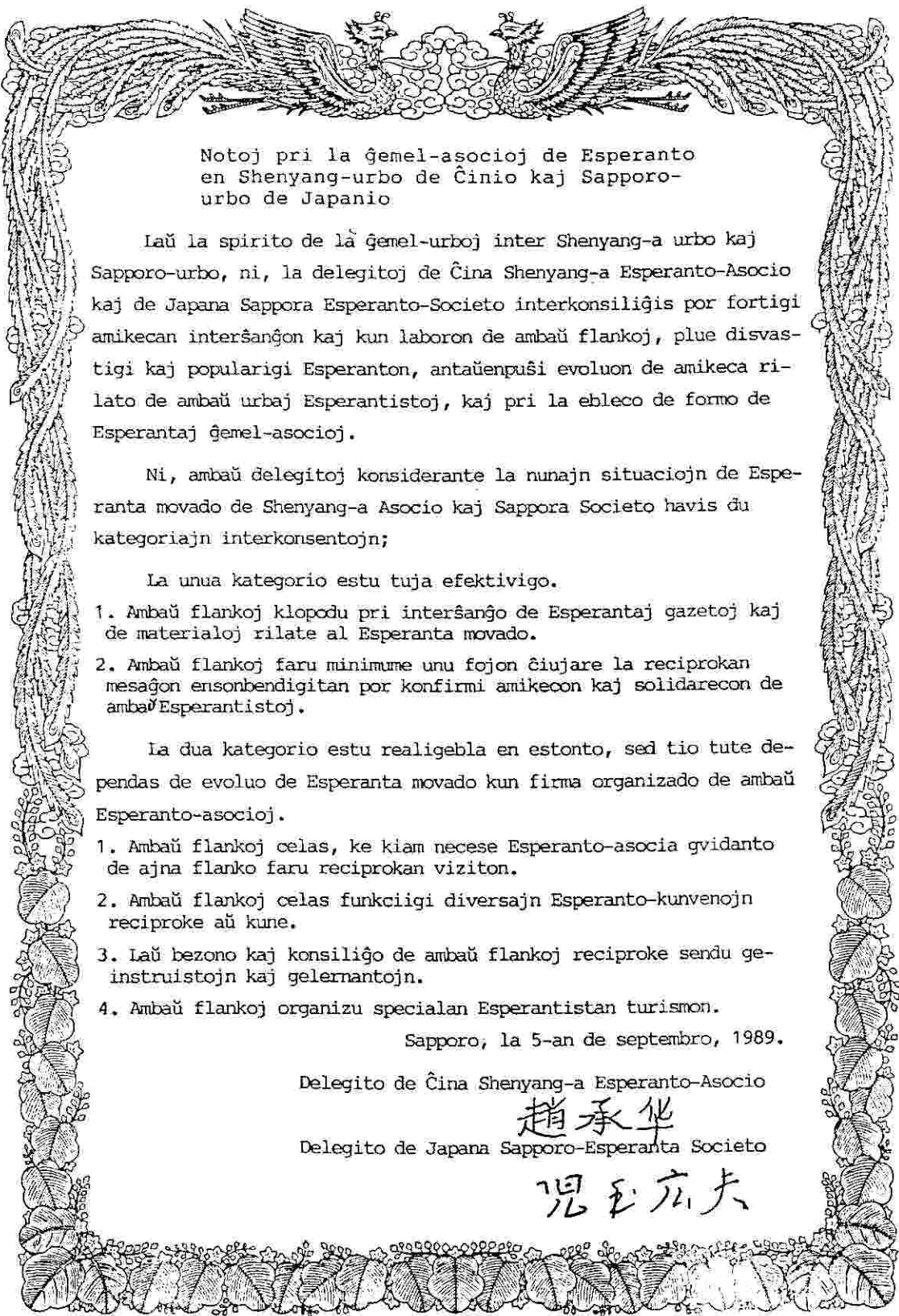
KIRIKAE Hideo

Sub la nomo de Hokkajda Esperanto-Ligo, mi, ĝenerala sekretario de la ligo, varme bonvenigas s-ron Zhao.

Mi supozas, ke vi estas nun spertanta japanan vivon kun tre freŝa impresoj. Vi certe interesiĝos al ĉio, kion vi renkontas. Jes, vi estas vojaĝanta en nova lando por vi. Mi esperas, ke vi vidu diversajn aferojn en Japanio, kaj ekhavu ekzaktan konon pri ĝi. Ĝuu la vivon dum vi restas en Japanio.

Kvankam via vojaĝperiodo estas tre limigita, tamen vi ekkonos multajn agrablajn samideanojn, kiuj helpas al vi kaj faciligos vian vojaĝon. Kiam vi revenos al Ĉinio, bonvolu sciigu viajn kunulojn pri japanaj samideanoj.

Mi kredas, ke estas lasitaj multaj aferoj, al kiuj necesas sindonaj kunlaboroj de ĉinaj kaj japanaj samideanoj. Post kiam vi revenos al Ĉinio, ni daŭrigu kontakton kaj kreskigu amikecon pli grande.



Notoj pri la ĝemel-asocioj de Esperanto
en Shenyang-urbo de Ĉinio kaj Sapporo-
urbo de Japanio

Laŭ la spirito de la ĝemel-urboj inter Shenyang-a urbo kaj Sapporo-urbo, ni, la delegitoj de Ĉina Shenyang-a Esperanto-Asocio kaj de Japana Sapporo Esperanto-Societo interkonsiliĝis por fortigi amikecan interŝanĝon kaj kun laboron de ambaŭ flankoj, plue disvastigi kaj popularigi Esperanton, antaŭenpuŝi evoluon de amikeca rilato de ambaŭ urbaj Esperantistoj, kaj pri la ebleco de formo de Esperantaj ĝemel-asocioj.

Ni, ambaŭ delegitoj konsiderante la nunajn situaciojn de Esperanta movado de Shenyang-a Asocio kaj Sapporo Societo havis du kategoriajn interkonsentojn;

La unua kategorio estu tuja efektivigo.

1. Ambaŭ flankoj klopodu pri interŝanĝo de Esperantaj gazetoj kaj de materialoj rilate al Esperanta movado.
2. Ambaŭ flankoj faru minimume unu fojon ĉiujare la reciprokan mesaĝon ensonbendigitan por konfirmi amikecon kaj solidarecon de ambaŭ Esperantistoj.

La dua kategorio estu realigebla en estonto, sed tio tute dependas de evoluo de Esperanta movado kun firma organizado de ambaŭ Esperanto-asocioj.

1. Ambaŭ flankoj celas, ke kiam necese Esperanto-asocia gvidanto de ajna flanko faru reciprokan viziton.
2. Ambaŭ flankoj celas funkciigi diversajn Esperanto-kunvenojn reciproke aŭ kune.
3. Laŭ bezono kaj konsiliĝo de ambaŭ flankoj reciproke sendu ĝeneraliŝtoj kaj ĝenerantojn.
4. Ambaŭ flankoj organuzu specialan Esperantistan turismon.

Sapporo, la 5-an de septembro, 1989.

Delegito de Ĉina Shenyang-a Esperanto-Asocio

趙承華

Delegito de Japana Sapporo-Esperanta Societo

児玉宏夫

札幌 加賀谷 勇

9月5日、札幌市職員会館での歓迎夕食会の後、児玉・札幌エス会会長の車に木村喜壬治先生と同乗して趙承華氏をわが家へ案内しました。玄関前で御二人にお別れして趙氏を家の中に招き入れてからが大変。さっそく妻と趙氏との間で中国語での会話が始まりました。

妻は中国の方は大食かつ美食である聞いていたので、夕食は必要ないと言ってあったにもかかわらず7品程用意していましたが、それにはほとんど手をつけず、お茶を飲みながら西瓜をスプーンですくいながら食べていました。趙氏は、来年私ども夫婦が中国を訪問する意思があることを伝えると大変喜んでいました。

私が水彩画と書道を習っていると知った彼は、帰国後、書と絵をかいている友人を早速紹介して妻宛てに手紙を出させる故お友達になれとのこと、そうして木村先生のためにお持ちになった見事な2枚の作品を下さった。木村先生のお口添えとのこと、有難うございました。

翌朝、三越デパートまでの見送りも不安に感じた私は妻も同行させ、どうやら私の役目は終了しました。何故かドット疲れが出ました。妻は私以上に疲れだろうと感じました。

とにかく強く感じたことは、私自身の語学の無力さでした。今までは妻が予習・復習と称して中国語を朝から晩までひまさえあれば大声で朗読し、中国語映画が始まるとテレビチャンネルの独占でしばしば口論もしましたが、今回趙氏の来宅を機会にすっかり見直しました。そうして私自身も初心に返り、エスペラントの勉強に一層の努力をしようと思いを固めました。

エス・アミーコ、妻としきりに中国語

趙さんは妻立つときに箸を執り

趙さんの目線八分は妻の顔

食事中ペンの動きが箸よりも

とにかくにも此の度、趙さん来宅のおかげで偉大なる妻に感謝するとともに、二度惚れしながら『奥様 神様 仏様』を手を合わせた次第です。

趙承華氏案内記——趙さんが見た札幌

札幌 小林貴美子

想像を越えた日本の物価高

9月6日 AM10:00、三越ライオン前で加賀谷勇夫妻に伴われた趙氏を迎え、われら三人組（金森美子、末永章子、小林）に加賀谷さんも加わって下さり、迷通訳者の案内が始まった。

まずデパートを見たいという趙氏の希望で目前の三越デパートに入る。彼の妻と4歳になる娘さんのみやげにハンドバッグとスカーフを買いたいというので、一階バッグ売場へ案内する。しかし陳列されたプライスを一目見て目をみはる、驚愕の表情を隠し切れず“Kara! Tre kara! Mi ne povas aĉeti!”と顔を曇らす。ハットしたが時すでに遅く、“Ĉi tiu ĉiovendejo estas la

unua klaso en nia urbo.”と慰める。すぐ売場の人にバーゲンについて尋ねると、シーズン初めてやってないとのこと。金森さん、末永さんがジェスチャーを混えながらそのことを説明して、むしろこれから立寄る東京の方が手頃な値段で買えることを納得したものの、紳士用の靴、カバンの売場をみながらしきりに“Kara!”を連発していた。

後でわかったことだが、彼の1ヶ月の給料は日本円にして6,000円とのこと、彼にとって terure kara! だったことだろう。申し分けないことをしたと思う反面日本人の生活の実態を認識してもらうためにはよかったと思う。丸善にも立寄ったが、何を見ても値段が高いのですっかり買物は

興ざめたようだ。

午後からは雨との予報であったので、大通り公園を抜け時計台へ。金森さん、末永さんはこの日のために予習した会話を生かし一生懸命に時計台の歴史についてエスペラントで説明。趙氏はその説明に耳を傾けながらも目は日本語の説明文を追っている。漢字の拾い読みで概ねの意味が理解出来るらしく、“Mi komprenas, mi komprenas.” としきりにうなづく。この時計台の鐘が百年以上前にアメリカから取り寄せられたもので、しかも今なお時を告げていること、かつては馬に引かれた *ĉaro* が札幌の乗物だったことなどをゼスチャーよろしく金森さんが熱心に説明する。「時計台の鐘」のメロディーが流れると彼女は即エスペラントで歌って聴かせた。

時計台を出て、大通り公園の幾本かの通りを西へ横切りながら、焼きとうきびや馬鈴薯の値段を見て彼はしきりと首を振り頭の中で中国の値段に換算していたらしく、ここでも目を丸くして考えられない高値だと話していた。

日本人の給料、年金受給額に驚き

昼食はホテル・アルファ地下の和食レストランへ。入口に今日のお勧めメニューが写真入りで出ており、刺身定食、てんぷら定食各々1500円のプライスがついていたが、彼はもはや何も言わなかった。和服の *servistino* に導かれ奥の落ち着いたような席についた時、彼は日本のレストランの女性のマナー非常に感じよく中国でも見習うべきだと言った。かつて瀋陽市旅遊課に勤め、現在は市政府外事弁公室（国際交流課）勤務の彼に日本女性の接客態度が参考になると肌で感じ取ってもらえたのは嬉しいことであった。

食事中も彼は熱心に疑問点をストレートにぶつけてきた。彼の前に座った末永さんに、

“Kiom da mono via edzo ricevas en tago?”

“Mia edzo ricevas pli ol ... jenojn por lia salajro.”

“Ĉu vere, sufiĉe multan monon!”

“Mia edzo laboras en mezlernejo kie li okupas por la vicdirektoro. Nun li estas... jar-aĝa kaj ni havas tri filojn, kiuj vizitas universitaton kaj nia plej malpli aĝa filo baldaŭ vizitos altlernejon...”

と末永さんは日本の教育費の高いこと、高額所得者に思われるかも知れないが諸物価の高い日本ではそれなりに生活費も多く必要で決して生活は楽ではないと力説。加賀谷さんもエスペラントと漢字を混えながら日本の年金生活について具体的に受給金額をあげて説明、一般的にこの金額であろうという、趙氏は一生懸命に中国のお金に換算し驚きを隠し切れない様子で、“Ĉiuj japanoj povas ricevi tiom multe da mono por pensiulo, ĉu?” と真剣なまなざし。

熱心な中国訪問のお誘い

昼食が終わる頃、義村政見さんが車でホテルまで迎えに来た。加賀谷さんは午後から用事があり、ホテルの前で手を振って見送ってくれた。趙氏も名残おしそうにいつまでも彼に手を振り続けながら、“Li estis bonkorulo!” と万感を込めて言った。きっと奥様ともどもの加賀谷さん宅での温かいもてなしに深い感謝の念をいただいたことであろう。

札幌の繁華街を南に抜け、豊平川に沿ってに札幌芸術の森へ向かう車中、彼はすこぶる陽気で、“Aŭtoj! Multaj aŭtoj! Sed, en nia lando kuras bicikloj kaj bicikloj.” などと笑っていた。その間も義村さんは脚の長い彼のために座席を後に引いてスペースを取ってあげるなど細やか気配りを見せていた。中国では個人的に車を持つことは許可されていないが、来年、姉妹都市10周年記念にあなたたちが瀋陽を訪れてくれたら、レンタルしてでも様々な場所に案内するから是非たくさん来て下さい、飛行機代は無理だがその他の滞在費用は *tre malkara* にしてあげよう、と熱心に訪中をすすめられた。

芸術の森に到着したものの、心は果たして彼に

ここに展示されている芸術作品のすばらしさを解説出来るか否か不安がよぎる。何度かここを訪れたことのある金森さんが入口で中国語のガイドマップをもらってくれてホッとする。広い園内は変化に富んだ地形を生かした緑美しい芝生や白樺林などの路に沿って作品が点在しており、新鮮なオゾン吸いながら“Freša aero!”などと自然にエス語が口をついて出ていたようだ。作品群のすばらしさに、しばし趙氏の存在を忘れ感動する。

仕事上、美術に詳しい金森さんが表情豊かに身振りよろしく説明すると、何分にも彫像は男女のシンボルあらわな裸体なので、若い彼は目のやり場に困って困惑の様子。彼の国では裸体の彫像などは余り見る機会がないのかも知れないと思った。

日本の青年はなぜ幸福だと思わないのか

幸い雨にも降られず、なだらかな森の小道は空気が爽やかで涼しく、ひときわ話がはずむ。しかし彼は彫刻よりも何よりも私達の生活意識の方に興味があるらしく、しきりに“Ĉu vi nun estas feliĉa?”, “Ĉu japanaj junuloj sentas sin feliĉaj?”と話しかけてきた。

「私自身について言えば、第二次世界大戦当時の貧困生活を経験したから、物質的に恵まれた現在の生活は確かに幸福だと感じているが、戦争や貧困生活を知らない現代の若い世代が今を幸福と感じとることは難しいことかも知れないだろう」と話すと、“Kial do?”と真剣な顔つきで問い詰めてきた。また、「若くして車を持ち、外国旅行が自由に出来、欲しい物は何でも手に入るであろうに、なぜそれを幸福と思えないのか」と彼は言う。三人とも、十分ではない語彙の中から、どのようにわれわれの精神的葛藤やモラルについて説明すべきか困惑する。

ちょうど木工房の建物が見えてきたので、やれやれと彼を案内する。染色工房、工芸館などを見学しながら、なおも彼の思いは続いているらしく熱く問いかけてくる。とうとう道端で立ち止まり、彼への答えとして適切か否か分らないが「物

質的に恵まれ過ぎて、貧しいことのつらさや他人の心の痛みを理解出来ないという、人間としての精神の欠落が生じて来ている」ととにかく答えた。その時、義村さんの車が見えたので話はそこで中断され、シンボル彫像『空と地の軌跡』の前で記念撮影して帰路に着いた。

いま、末永さんからお誘いを受け、趙氏と同伴できたことを心から感謝している。テレビ、新聞、雑誌等で中国について少しは知識を持っていたが、それ等は外から見た知識で、趙氏が中国で想像していた日本と大差なく、真の中国を理解するに至らないことを深く反省させられた。一日も早く中国の人びとが納得できる現代化(modernigo)が実現することを願うとともに、現代化によって心までも失うことのないことを祈りたい。

たのまれないけど、勝手に広告!

エスペラントの世界

エスペラントが実際に活躍していることを紹介する月刊誌です。エスペラントの雑誌ってどうも・・・と敬遠されているあなたにピッタリ。家族やお友だちにエスペラントを理解してもらうのにも最適。「海外雑誌による海外の動き」は世界のエス運動情報を伝えてくれます。

毎号 16p 年間購読料 3000 円

89年90年 2年分同時購読申し込みの方には『エスペラントの世界』特製の緑の小旗がもらえます。申し込みは下記へ。

郵便振替 東京 4-151284

エスペラント通信社

La Lasta Flugo al Parizo 渡辺淳一『パリ行最終便』(植木茂訳)。痴話喧嘩をエスペラントで。一気に読ませる訳とストーリー。東京、88年、55p、500円。

連盟では現在、書籍の取次ぎをしていません。最寄りの書店で、日本エスペラント学会発行と指定してご注文ください。送料はかかりません。

北海道エスペラント連盟総会議案

(第53回北海道エスペラント大会第2日)

Diskutaĵoj de Ĝenerala Kunsido de Hokkajda Esperanto-Ligo

1989年10月1日 北海道大学学術交流会館
(札幌市北区北8条西5丁目)

1-a de oktobro, 1989; Domo por Sciencia
Interfluo en Hokkajdo-Universitato

I. 開会のあいさつ・La Espero 斉唱

II. 大会議長選出

III. 北海道エスペラント連盟会長あいさつ

IV. 報告と議事

A. 報告

1. 北海道エスペラント連盟活動報告

2. 北海道エスペラント連盟会計報告

3. 決算承認

4. 各地区活動報告

B. 協議事項

1. 会員登録と会費の問題

2. 北海道エスペラント連盟活動方針

3. 次年度計画と予算

a. 研修会

b. スキー合宿

c. 連休合宿

ĉ. 共同翻訳

d. その他

4. 規約改正

5. 第54回北海道エスペラント大会開催の日程と開催地

C. 役員改選

V. 閉会のあいさつ・La Tagiĝo 斉唱

I. Parolo por malfermo ; Kantado de La
Espero

II. Elekto de la prezidanto de Kongreso

III. Parolo de la prezidanto de Hokkajda
Esperanto-Ligo

IV. Raportoj kaj diskutaĵoj

A. Raportoj

1. Raporto de la agado de Hokkajda
Esperanto-Ligo (HEL)

2. Raporto de la financo de HEL

3. Konstato de la raporto de la financo
de HEL

4. Raportoj de agoj de lokaj societoj

B. Diskutaĵoj

1. Problemoj pri membreco kaj jarkotizo

2. La principo de agadoj de HEL

3. Plano de la venonta financjaro kaj
budĝeto

a. Lernkunsido

b. Kunloĝado kun skiado

c. Kunloĝado de Oraĵ Tagoj

ĉ. Kunlabora tradukado

d. Aliaj

4. Ŝanĝigo de la regularo de HEL

5. Dato kaj Loko de la 54-a Kongreso de
Esperantistoj en Hokajdo

C. Elekto de novaj komitatanoj de HEL

V. Parolo por fermo ; Kantado de La Tagiĝo

北海道エスペラント連盟（88／89）活動報告

報告者 北海道エスペラント連盟事務局長 切替英雄

この1年間の連盟の主な活動、できごとを日付順に報告します。

1988年08月21日、日本エスペラント大会の分科会の一つとして行なわれた第52回北海道エスペラント大会（議長：浜田国貞）では、会長、副会長など役員改選問題が解決せず、討議打ち切りになる（Heroldo de HEL 26号 6,7p）。

09月09日、連盟創立者のお一人、連盟顧問・相沢治雄氏が急逝された。享年76歳。連盟役員、ふるくからの同志、札幌在住の会員が札幌市での御葬儀に参列する（同26号 1-4p）。

10月16日、札幌エスペラント会青年部主催の研修会を後援する（同27号 6p）。

11月06日、連盟役員会を開き、役員人事の決定を主な目的とする臨時北海道大会の日程、および役員会から推薦する新役員の名簿を決定する（同27号 14, 15p）。

12月10日、札幌で臨時北海道大会を開催し、現在の役員人事を決定する。ただし会計委員は未決定（同28号 2p）。

12月10日、札幌エスペラント会主催のザメンホフ祭にて、同会の協力により連盟所有の書籍を販売する（同28号 3p）。

12月29日、新役員による第1回役員会を開き、連盟事務局および編集部の移転、新会計委員の選出（切替兼務）、連盟会計年度、春季合宿の概要などを討議、決定した（同28号 15p）。

1989年02月03日、前会計委員・砂野裕子より会計業務を引き継ぐ。

02月11日、第2回役員会を開き、今年度の活動計画と予算を立て、渡辺晋道に連盟会員名簿の作成を委託したほか、山部合宿での役割分担を決

めた（以上、同29号 19p）。

04月27日、第3回役員会を開き、山部合宿の細部を確認する（同31号 14p）。

05月03, 04, 05日、富良野市山部で連盟主催合宿を開催する。合宿中、故相沢治雄氏所蔵のエスペラント雑誌を展示（主に戦前の北海道を中心としたコレクション）。同時に、故永戸良一氏蔵書を販売（同30号 2-4, 8-10p）。

08月20日、札幌エスペラント会役員と連盟役員により、趙承華氏（瀋陽エスペラント会）歓迎のため協議。また札幌エスペラント会に第53回北海道エスペラント大会につき協力を依頼する。

同日、第4回役員会を開き、第53回北海道エスペラント大会第2日の連盟総会での討議事項などを決める（同31号 14p）。

以上の他、本役員会は機関誌 Heroldo de HEL を6号発行した（26号から31号まで）。また機関誌以外に、地方に孤立している会員、主な地方の地方会役員に役員会報告を1回発送した（02月14日。これは機関誌が隔月刊のため、会員にすみやかに連絡が必要になったため）。また、合宿の計画段階で、協力依頼書を同様に発送した。さらに合宿、大会の参加よびかけ、住所録作成のため、全会員に郵便物を発送した。

会員住所録は、連盟の会員であるか、Heroldo de HEL の購読者であるか不明な人が多いので、しばらく刊行を見あわせている。

1989年09月10日現在の連盟会費納入者は66名、機関誌購読者は6名。Heroldo de HEL は現在99部発送されている。このうち寄贈（個人、機関、マスコミ）は22部となっている。

この1年間に9件の寄付が連盟によせられ、ま

た、編集部には切手による寄付が数件あり保管されている。

山本昭二郎氏の手を経て、故相沢治雄氏旧蔵書が連盟に寄贈（目録は Heroldo de HEL 29号 15-17p）されたほか、星田淳連盟会長の手を経て、故永戸良一氏旧蔵書が寄贈された。

受領雑誌（Heroldo de HEL との交換により寄贈されているもの）：Mejlŝtono（仙台エスペラント会）、La Tamtamo [kun Novaĵoj Tamtamas kaj Lernantoj]（横浜エスペラント会）、VERDA MONTETO（和歌山緑丘会）、La Vulkanio（福岡エスペラント会）。

受領雑誌：Mondo kaj Ni（UUSINK NAGATA Akiko）。

購読雑誌：La Movado（関西エスペラント連盟内ラ・モバード社）、PONTETO（関東エスペラント連盟）、エスペラントの世界（エスペラント通信社）。

受領文書：サンフランシスコ州立大学夏季エスペラント講座案内（ザメンホフ・クルーボ 江藤誠一氏）、第8回日韓青年セミナー案内（横浜エスペラント会）、UEA東京事務所などに関する通知（梅田善美氏）、第21回エスペラント林間学校案内（関西エスペラント連盟）、第22回エスペラント全国合宿案内（東京青年エスペランティストの会）、第30回東北エスペラント大会案内（仙台エスペラント会）、UEA副会長退任にあたってのあいさつ（梅田善美氏）。

北海道エスペラント連盟規約改正案

第1条（名称） この連盟は北海道エスペラント連盟（Hokkajdo Esperanto-Ligo ないし Hokkajda Esperanto-Ligo）と称し、事務局を北海道内におく。

第2条（組織） この連盟は原則として北海道在住のエスペランティストの中の希望者（個人会員）および地方会各団体（団体会員）で組織する。

第3条（目的） この連盟は、北海道におけるエスペラントの宣伝と実用をはかり、民主的文化の向上に寄与し、世界的な交流をはかることを目的とする。

第4条（事業） この連盟は、目的達成のため、次の事業を行なう。

- A. 機関誌、印刷物の発行
- B. 講習会、展示会、合宿などの開催
- C. 国内外のエスペラント団体との共働
- C. エスペラント以外の諸文化団体との提携

D. その他

第5条（大会） この連盟は、年1回北海道エスペラント大会（Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo）を開催する。

第6条（委員会） この連盟に、次の委員よりなる委員会をおき、連盟の事業を立案、実行する。

A. 委員長1名、事務局長1名、会計委員1名
および各構成団体、個人会員の中より選出される委員

B. 委員長は、この連盟を代表し、委員会を開く

C. 各委員の任期は、定期大会から次の定期大会までとする

第7条（顧問） この連盟に顧問若干名をおく。
顧問は委員会にて推薦する。

第8条（財政） この連盟の会費（年額）は2000円とし、家族会員はその半額とする。会計年度は歴年とする。

第9条(会計監査) この連盟に会計監査を2名おき、会計監査を行ない、大会で報告する。

第10条(規約改正) この規約は、大会の決議がなければ、変更することができない。

- (付則) 制 定 1946年09月22日
 第1回改正 1948年11月03日
 第2回改正 1954年09月23日
 第3回改正 1956年09月23日
 第4回改正 1962年08月03日
 第5回改正 1964年06月07日
 第6回改正 1966年07月10日
 第7回改正 1972年07月09日
 第8回改正 1974年 月 日
 第9回改正 1986年09月07日
 第10回改正 1989年10月01日

連盟会計報告、予算案は総会当日に配布

第30回東北大会へ

10月21日(土)/22日(日)、仙台市

東北の仲間たち、全国の仲間たちと語り合い、友情を深めよう!

案内書、会場図はお手もとに届きましたでしょうか。実参加は出来なくても寄付と不在参加を。

北海道エスペラント大会会場でも受付けます。

参加費: 3000円 (不在参加1000円)

〒振替: 仙台 7-4231 東北エスペラント大会

連絡、宿泊の申し込み先: 980-91 仙台中央

郵便局私書箱 120号 仙台エスペラント会

第76回日本エスペラント大会申し込み先

郵便振替 大阪 8-111833

第76回日本エスペラント大会

新年度 連盟会費受領者 (89-09-27現在)

阿部映子、留目雅之、留目昌子、木村喜壬治、馬場恵美子 (以上5氏は札幌)。

渡部隆志(厚真)、横島君枝(常呂)、高橋達治(千葉市)、三ッ石清(名古屋市)。

第53回北海道大会への寄付 (89-09-27現在)

渡部隆志(厚真=11,575円)、江口音吉(小樽=2,000円)、高橋達治(千葉市=1,000円)、矢崎陽子(福島市=2,500円)、横島君枝(常呂=1,000円)、山岸悦子(札幌=1,500円)、馬場恵美子(札幌=10,000円)、関東エスペラント連盟(1,000円)。 以上敬称略

ありがとうございました。(事務局)

連盟事務局受領文書 (89-09)

世界エスペラント協会副会長退任にあたってのあいさつ(梅田善美)。

日本大会日程決定

第76回日本エスペラント大会は、11月25日(土)/26日(日)、東京都新宿区

の(財)早稲田奉仕園セミナーハウス、エスペラント会館を会場に開催されることが決まった。詳細は9月下旬発表の予定である。さあ、昨年札幌での日本大会への友情と協同に答えるときが来た!

参加、寄付で第76回大会を成功させよう!

参加費: 11/10まで3000円。以降3500円。

不在参加費: 1500円。

郵便振替による申し込みは 11/10着分で終了。以後は当日会場で受け付ける。

(振替口座番号は左に記載)

Vizito de Ĉina Samideano

KIRIKAE Hideo (Otaru)

En la 7-a de septembro ĉina samideano Zhao Chenhua vizitis Otaru. Ni havis tre agrablan kaj ĝojan tempon en trajno, en mia aŭto, en ŝipo sur la maro, en akvario, en restracio, kaj en mia hejmo. Ni parolis pri multaj temoj.

Ni parolis interalie pri interrilito inter shenyangaj kaj hokkajdaj esperantistoj. Ĉar li ne sciis bone la situacion de la nuna esperanta mondo de Japanio, mi klarigis ĝin kaj precipe detale parolis pri la hokkajda Esperantujo, ĝia organiza formo kaj financo. Li jam ekzakte konas pri la distingo inter Hokkajda Esperanto-Ligo (HEL) kaj Sappora Esperanto-Societo (SES). Li ankaŭ konas la nombron kaj financon de HEL. Mi eĉ montris al li la kontolibron de HEL. Krome li tre deziras scii, kial kaj kiel okazis la eksigo de la antaŭa prezidanto de HEL. Mi klarigis facile pri tio.

Li volis ekigi homan kaj materialan interŝanĝon organizan kaj regulan inter Shenyanga Esperanto-Asocio kaj SES. Mi konvinkis lin, ke tio estas malfacila. Li komprenis, laŭ mia impresio, ke ne nur SES, sed ankaŭ HEL ne povas respondi al lia volo. S-ano KODAMA, la prezidanto de SES, petis al mi antaŭe, ke klarigu al li tian situacion de Hokkajdo. Tial mi klarigis tiel konkrete kaj detale.

Mi pensas, ke la plej bona vojo estas interŝanĝo de shenyanga organo kaj nia Heroldo de HEL. Tio estas sama opinio je s-ano KODAMA. Li opinias, ke, se eblas, unu aŭ du numeroj de Heroldo en unu jaro alprenu Esperanton en tuto da paĝoj. Mi pensas, ke tio estas bona plano. HEL-anoj kaj SES-anoj, bonvolu diskuti pri tio. Interŝanĝo de organoj estas realigebla, per kiuj ni povos informigi unu la alian. Sufiĉaj informoj estas necesaj por kreskigi amikecon. Amikeco sen interkompreno estos sensenca kaj vana. Interŝanĝo de la organo estas tre taŭga por nia interkompreno.

Mi kaj miaj familianoj havis tre bonan impreson al li. Antaŭ la vojaĝo al Japanio, li kaj liaj familianoj, la edzino kaj filino vojaĝis al urbo Daljan kaj restis tie 7 tagoj. Kiam li eksterlandiĝis, la familianoj revenis al Shenyang. Ĉi tiun vojaĝrakonton li parolis feliĉe. Ni sentis lin tre intima.

読書ノートから

須藤 昭三

"Çu vi bremsis sutfçe?"

Johán Valano 著

短いブロンドの髪と体格のよい、バラ色の頬の警官が来訪者を見ていた。

"Sinjoro?" 警官が聞いた。乱れた黒い巻き毛に覆われた頭、少しばかり怖そうな表情の目、貧相なその若者の弱そうな姿を頭に入れながら。

"私、マルコ・マルクスといいます"、その若者は言った。"アレクサンドロ・エンドリックの調査なんです、責任者の方とお話したくて"。

"カーラル刑事は今いないよ。その調査ならここの警察全部が係わっている、私が聴こう"。

この小説——犯罪小説であり、エスペラント原作であり、"Çu シリーズ"の一冊でもある——の一部である。この手の小説は読み流すと前に出てきた男(あるいは女性)がどんな場面に出てきたか混乱する。名前も個人名であったり家族名で出てきたりして全く苦勞した。

昨年一度読んだので、今度はそれも考え全部ノートへ訳し書いていった。128頁の本であるが大学ノートでびっしり120頁ほどになり、ちょうど2ヶ月かかった。登場人物は別に名前と関係を書いたものを用意し、横に置いて読み進めた。面白いが、物悲しい物語でもある。

あるとき、道路建設派のエンドリック夫妻が交通事故で死亡する。その車の残骸もすぐ爆破された。証拠を消すためか、犯罪ではないか、と警察が調査にのり出す。カーラル刑事は妻ジョヤ(心理学者)の甥で大学生のステファーンをアルバイトとして自動車整備工場に潜り込ませる。実は事故の前日、夫妻の車はこの工場で整備されたからである。

事故死したアレクサンドロには弟ヤンカルロがおり、いずれも建築家である。兄は保守派(強引な性格、弱者を苛めることに快感を感じる町の理事、莫大な財産持ちでスローガンは未来、進歩、近代化で評判悪い)、弟は革新派である。いま先祖が営々と造ってきた石畳の歩道を破壊し車道を広げる計画をしているのが兄であり、反対派となって町を守ろうと闘っているのが弟である。整備工場にはオーナーと工場長の他、ステファーンとペトロとハリム(アルバニア人、イスラム、有能な技師)がいるが、当日勤務していたハリムが疑われる。"彼の宗教は何だ?" "イスラムです"。刑事と甥の会話である。イスラム教徒が亡くなった場合、彼等は墓をメッカに方向に向けて建てるが、アレクサンドロはそれを許さなかった。それが疑われる理由のひとつだった。カーラル刑事はヤンカルロの妻ドラの聞き込みに行つて危うく誘惑されそうになる。昼間からウィスキーを飲み、肘掛け椅子にはすに腰掛けたドラは"男前の刑事さん、協力するわよ。でも仕事が終わったらプライベートよ、いいわね"。果たしてアレクサンドロの車のブレーキに仕掛けをしたのは誰か、カーラルの捜査は続く。

(室蘭エスペラント会)

Japanana militkaptito kaj mia patrino El leteroj de siberia amiko

Acuŝi HOŜIDA (Tomakomai)

En multaj lokoj sur la vasta siberia tero vivis japanaj militkaptitoj dum kelkaj jaroj post 1945, la malvenko de Granda Japania Imperio.

En 1982 mi havis ŝancon vojaĝi tra Siberio kiel membro de amikeca karavano de urbo Otaru por viziti ĝian ĝemelan urbon Nahodka. En la karavano troviĝis kelkaj maljunuloj, iamaj militkaptitoj. Antaŭ Hotelo de Nahodka ili interparolis pri la loko de iama sia kazerno (koncentrejo?), kiu iam estis en la kampo trans apuda rivero. Mi skribis pri tio al Sergej I. Anikejev en Vladivostok.

En sia sekva letero li skribis:

"Jam ne unuan fojon mi aŭdas, ke ofte nian landon vizitas tiuj, kiuj estis ĉi tie militkaptitoj post 1945. Mi eĉ mem gvidis iam grupon de japanoj, kiuj vizitis tombejon, kie estis enterigitaj ties parencoj. Ankaŭ mia patrino rakontis al mi, ke kiam ŝi estis juna ŝi ofte estis vizitata de unu japana soldato (ankaŭ juna) en sia hejmo kaj li eĉ instruis al ŝi kantojn. Certe, mi ne povas deĉifri verajn vortojn de la kantoj, ĉar ŝi tute ne konas la japanan lingvon kaj kripligas vortojn de la kantoj terure."

Sergej bone komprenas la japanan lingvon kaj iam estis ĉiĉerono por japanaj turistoj. Por mia demando pri la kanto venis lia respondo kiel jene:

"Pri la melodio de la japana kanto mi ne estas certa. 'Po-po-po, hata po-po-po, mina de ...' kaj plue sekvas treege kripligitaj vortoj, kiujn mi ne povas deĉifri. Eble iu soldata kanto."

Eble japana leganto tuj rimarkas, mi certas, kio estas la kanto. Jes, ĝi estas la infana kanto Kolomboj (Hato poppo), ĉu ne?

Mi informis lin pri la kanto per muziknoto. Li reskribis al mi, "Dankon por la kanto, ĝuste tiam la patrino konas."

En Japanio eldoniĝis multaj libroj pri la vivo de siberiaj militkaptitoj. Sed certe tiam estis diversaj interrilatoj inter japanaj kaptitoj kaj ĉirkaŭaj sovetianoj. Dum la vojaĝo en Ĥabarovsk min salutis rusa maljunulino "Konniŝiŝi..." kaj "Sajonara". Eble ŝi konis iun japanon, eble...kaptiton. Ankaŭ la patrino de Sergej, tiam juna, lernis la kanton de iu tiam same juna japana soldato kaj kantis kun li, kies nomon jam neniu memoras....

角译言兑

上の文章は、苫小牧の星田淳さんがウラジオストクのセルゲイ・アニケーエフ氏との文通のお話です。アニケーエフ氏の母親が第2次大戦直後、日本人捕虜から『ポポポハタポポポ ミナ デ・・・』という歌を教わったことを知り、『はとぼっぼ』の楽譜を送ったところ、まさにその通りとの返事が来た・・・との内容です。初学者向けに書いてもらいました。

北海道大会では本をいっぱい買おう!

文法の散歩道 小西岳の文法エッセイ。エッセイとはいうものの具体的に、丁寧に道案内してくれるエスペランチスト必読の一冊。大阪, 1986, 103p. 700円。

Sarkasme kaj entuziasme 宮本正男。エスペランチストたらんとする者は読まねばならない! 峰芳隆編, Kritikanto刊, 1979, 151p, 1500円。
(その他、図書販売にご期待ください)

趙承華氏歓迎会のこと、入管のこと

札幌 馬場恵美子

来日した翌日の 9月 4日、ビザ延長申請のため札幌入国管理事務所へ。同行したのは児玉広夫、木村喜壬治、渡辺康子と馬場。ビザ（入国査証）は 9月 3日～14日までの旅行日程を提出したところ、期日だけの12日間のみ許可がおりていたのですが、急に離道後の滞在が長びきそうになったのでこの申し入れになりました。

1時間以上の話し合いにもかかわらず、受付られませんでした。その理由は「期日どおりに交流をおこなうべきである」「来日したばかりなのに延長というのは目的からはずれているのではないか」というものです。一同ガッカリ。とくに趙氏は、仕事の関係上なぜ3日間の延長が難しいのか理解出来ず頭をひねるばかり。彼は瀋陽で入国審査の仕事をしている、つまり中国ではカウンターの向こうにいる職業なのです！ このとき、いま外国人労働者の問題が報じられていることが頭をかすめました。

後日、再度申請することで入管をあとにし、北海道教育大学札幌分校へ。ここでは世界大会（北京）からの縁で三沢正博教授を訪問しました。

5日夕方から札幌エスペラント会の歓迎会が札幌市職員会館がもたれ、20名が出席しました。ひさかたぶりの顔、外国人エスペランチストと話すのは初めてという人、自己紹介も笑いをさそう人、緊張する人と多彩な顔ぶれがあつまって、なかなか雰囲気の中で趙氏との交流を深めました。彼のあいさつに「どうぞ大歓迎しますので、瀋陽にいらして下さい」ということばがありました。来年は札幌・瀋陽両市の姉妹都市提携10周年、市民どおしの交流がますます大きくなっていけば、両市の姉妹提携も実りあるものになるのではない

か思いました。

歓迎会の際に瀋陽エス会から札幌エス会へ美しい旗が手渡されました。旗の文字は、

Estu eterna verda la amikeco inter ge-
esperantistoj de Shenyang-urbo de Ĉinio
kaj Sapporo-urbo de Japanio !

Donace de

Ĉina Shenyang-a Esperanto-Asocio

3-9-1989

(3日後、ビザ延長の許可がでました)

苫小牧エスペラント会の最近の活動

苫小牧 星田 淳

本町公民館まつりに参加

例会を開いている公民館の例年の公民館まつりは 7月17～20日に開かれ、当会は展示部門に参加した。幅4m弱の壁が割当て面積で十分なことは出来なかったが、激動する世界からの通信として天安門事件後の中国からの手紙と、ペレストロイカを反映した Moskvaĵ Novaĵoj の解説と、エスペラントの実績としてのエスペラント放送局の分布地図を中心に、観光案内や会話の例なども出展した。

中国の同志 Gao Ĉenghua (Zhao Chenghua) 歓迎

札幌エスペラント会が姉妹都市・瀋陽から招いた S-ano 趙承華（瀋陽市世界語協会秘書長）は 9月 3日千歳空港に着き、札幌、小樽を廻って 9日午後、札幌エス会の学習会に出席後、星田に同行して苫小牧へ。18時から一条通りの中華料理店蓬来で歓迎会、出席者6名。ここは彼の住む瀋陽から来た人たちの店なので、その人たちとも話がはずみ（こちらは中国語）、楽しかったもよう。

その夜は星田宅に泊り、翌朝は F-ino 北島瞳と星田が白老ポロトコタン（アイヌ民族資料館）などへ同行、午後は札幌の S-ro 児玉広夫も加わっ

て車で支笏湖を廻った後、千歳まで同行。ここで
苦小牧の二人は下車、彼は S-ro 兎玉とともに札
幌に向った。

例会

従来通り月3回、本町公民館で開いている。最
近、以前札幌で活動していた柴田真吾と夫人も加
わり、にぎやかになった。

PASPORTA SERVO EN SAPPORO
MIYAZAWA Naoto

Mi sendis aliĝilon al "Pasporta
Servo" en lasta monato kaj jam
estis registrita. Do, vi japanaj,
kompreneble ankaŭ hokkajdaj
esperantistoj povas tranokti ĉe
mia hejmo.

Mi havas du litojn por gastoj.
Pliaj gastoj povas, se ili portas
dormosakojn. Se vi anticipe
kontaktas min per letero aŭ
telefone, vi ne havos riskon.

Mi loĝas kun mia patrino, kiu
ne povas kompreni Esperanton. Sed,
kun mi vi devu paroli esperante.

adreso: 1-3-13 Asabuĉoo, kita-ku,
Sapporo(001)

telefonnumero: 011-717-4189

MIYAZAWA Naoto

各地、各専門団体、個人からの活動報告を
編集部あてに送ってください。全道の活動を
伝えるのが本誌の目的なのですから。エス文
大歓迎。Antaŭdankegon! (編集部)

★ESPERANTO T-ĉemizo

秋にTシャツを着たってええぢゃない
か! ワイシャツの下に着たって、パジ
ヤマにしたってええぢゃないか!

白地にあざやかな緑で ★ESPERANTO
阿部商会特製、いまトレーナー作製の
ため在庫一掃特別セール実施中。

1枚千円 1750円、SML指定で、
振替 小樽 8-6864 阿部映子 まで

La Movado

ラ・モバードを読もう!

西日本のエスペラント連盟の共同機関
誌、日本を代表する雑誌のひとつ。

8月号宮本正男追悼特集に星田淳「本
来の意味の radikalulo」。

9月号“Libro-Kulturo”(新刊案内
旧刊再読)は本誌29号から須藤昭三氏の
『読書ノート』“Romeo, Julieta kaj la
tenebro”を転載。

定評ある本の紹介、初等作文、エス運
動先進地の熱気を伝える運動記事!

日本エスペラント界の良心、

輝く星、ラ・モバードを読もう!

月刊 年間購読料3200円。

申し込みは下記へ

振替 大阪 6-60436

ラ・モバード社

(この広告は Heroldo de NEJ 編集者が勝手に掲載したものです)

SALATO

☆船便で届く *Bulgara Esperantisto* 5月号に同国 Stara Zagora の Petko Bonev に宛てた星田淳(苫小牧)の手紙(89-02-03付)がコピーで掲載されている。昨年の札幌のザメンホフ祭についても書かれている。この雑誌、北海道には読者が数えるほどしかいないらしい。

☆北大言語学研究报告第2号「『アイヌ神謡集』辞典 テキスト・文法解説付き」は切替英雄の力作。B5版 393頁で 6月30日に上梓されたものだが、春の合宿の前日に校了したのを聞き及んでいる。関連書誌のなかにはもちろん Ĉiri, Jukie. *Ainaj Jukaroj*. Red. Hošida Acuši. Sapporo, Japanujo: Hokkajda Esperanto-Ligo, 1978 eld., 1988 eld. がある。

☆「さっぽろヤングサークルガイド」(89年07月、札幌市青少年センター発行)の教養・研究(国際交流)のページに札幌エスペラント会の連絡先が。同ページには「エスペラントクラブ」(!?)という名前の英会話サークルも掲載されている。

☆赤旗89年08月26日付学問文化欄のインタビューに人形劇団プークの代表・川尻泰司が。「プークとはエスペラント語の『LA PUPA KLUBO』(人形クラブ)の略」と記者が前がき。

☆赤旗89年08月27日付に中台一郎の計報。80歳。

エスペラント運動との関わりについてはいっさい触れていないが、大島義夫・宮本正男『反体制エスペラント運動史』(三省堂)の読者はボエウ中央委員だった氏の名前を知っているはず。

☆またまた赤旗。89年09月27日付「読者の広場」(投書欄)に宇治市の相川節子の投書「見えにくいたごえ運動」が。宮本正男をしのぶ会で「宮本さんはうたごえの作品もたくさんエスペラントに訳された」と発言した人がいたと紹介しているが、要は今のうたごえ運動への注文。相川はもしかするとうたごえ運動でなくエスペラント運動のことを言っているのではないか。

(本欄の協力者は豊歳正吾さん、河原慶子さん)

★今年の北海道大会には、例年をこえる道外からの不在参加が申し込まれている。ここ2年ほどなんだかんだ言われながらも北海道連盟の存在が全国的に再認識されてきた結果なのだろうか。いずれにせよ、全国からの応援に応えよう。今度は東北大会、日本大会に参加する番だ。

★山本昭二郎さんの『エスペラント運動私史』は都合により休載です。(KK)

★今年の日本大会の日程がやっと発表されました。札幌の日本大会から1年たったんですね。87年から88年までは嵐のような1年でした。88年から89年までは充実の1年にしたかったのです。しかし現実はいっせいで……。(馬場)

☆ Ainaj Jukaroj

アイヌの口承文学『ユーカラ』(知里幸恵日本語訳)を北海道連盟翻訳グループがエスペラント訳した第2版。アイヌ語文法解説・小辞典を増補した名著!

1988年、北海道エスペラント連盟刊
定価 1,000円 千 260円 事務局取扱

★ Heroldo de HEL

n-ro 32 (1989, sept. - okto.)
北海道エスペラント連盟機関誌 隔月刊
編集部: 004 札幌市白石区もみじ台東
1-1-6-304 カワハラ気付
事務局: 047 小樽市入船2丁目17-12
郵便振替口座: 小樽 0-17075